

さめがわ村 みんなの

題字：鮫川小学校
4年 すずき のどかさん

No
158

令和元年12月

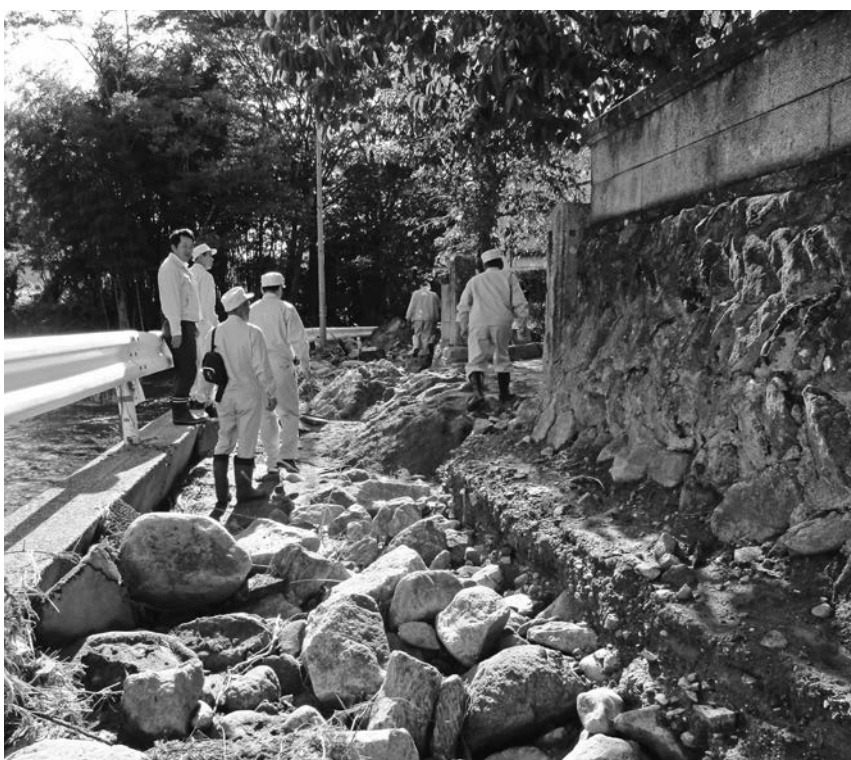
ぎがくー だより



9 月 定 例 会

- 災害被災状況を把握 …… 2～3
- 30年度決算など可決 …… 4～6
- 一般質問に5議員登壇 …… 7～12
- 追跡! あの一般質問 …… 13
- 視察研修報告 …… 14
- 村民の広場 …… 15
- ふるさと鮫川への想い …… 16

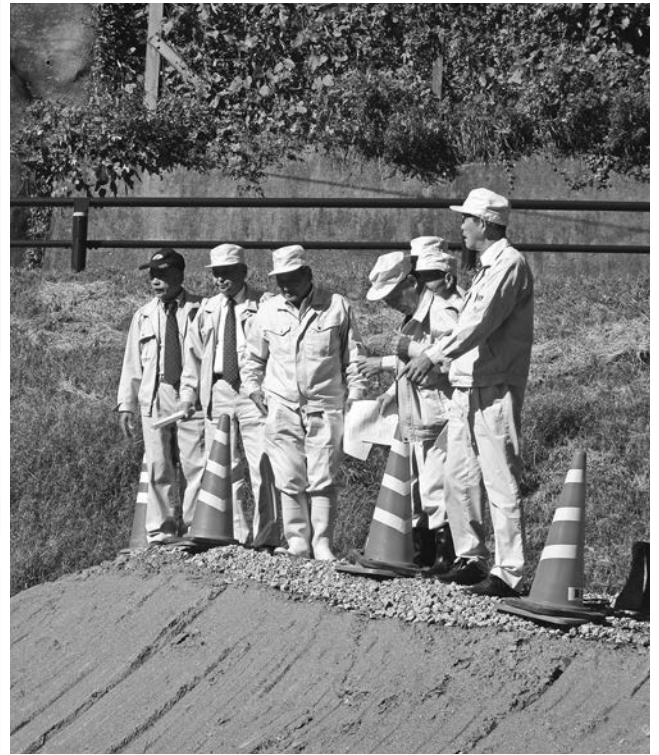
被災状況を把握



鮫川村議会では台風19号による被災地の状況と、復旧に向けた課題等を早急に把握するため「総務文教」「産業厚生」両常任委員会による現地調査を実施しました。

この日は、河川の氾濫で甚大な被害を受けた現地を調査。被害を受けた村民は「生活再建への第一歩」としながらも「片付けなどに追われ、まだまだこれからだ」と話しました。

台風19号による



使いみち



9月
定例会

気になる鮫川村の

借金と貯金

平成31年3月末現在(村のさいふ)

借金 村債

29億6185万円

貯金 基金

21億3583万円

村民1人あたり
88万7000円

村民1人あたり
63万9000円



関根政雄 村長

9月定例会の
あらまし

令和元年第5回議会定例会は、9月19日から26日までの8日間の会期で開催された。初めに、8月に議会議員補欠選挙が執行され1名の議員が、新たに就任されたことによる議席の指定、常任委員の選任の指名を行った。

今定例会は、平成30年度の決算認定、令和元年度各会計の補正予算のほか、報告1件、専決処分の承認1件、条例の一部改正

等14件、財産の取得1件の36議案が審議された。提出された議案はすべて原案どおり可決された。

また、最終日に追加提案された村教育委員会委員の任命同意、人権擁護委員の推薦につき意見を求める諮問が提出され、いずれも原案どおり同意可決等された。

一般質問では、5名の議員が登壇し、新村長就任による施政方針について質した。

専用のさいふ

特別会計

国民健康保険特別会計(事業勘定)

会社員ではない人の健康保険専用さいふ

入 4億2964万円 出 4億2776万円

国民健康保険特別会計(直診勘定)

村診療所専用さいふ

入 6411万円 出 6018万円

簡易水道事業特別会計

水道専用さいふ

入 1億980万円 出 1億820万円

村営バス事業特別会計

村営バス専用さいふ

入 1262万円 出 1088万円

集落排水事業特別会計

集落排水専用さいふ

入 4006万円 出 3920万円

介護保険特別会計

介護保険専用さいふ

入 4億8458万円 出 4億7304万円

交流施設特別会計

ほっとはうすさめがわ(宿泊施設)専用さいふ

入 2143万円 出 1902万円

学校給食センター特別会計

学校給食センター専用さいふ

入 9998万円 出 9976万円

後期高齢者医療特別会計

75歳以上の方の健康保険専用さいふ
(一定の障がいがあると認定を受けた65歳以上)

入 3774万円 出 3766万円

平成30年度 決算

村のお金の

村の さいふ 一般会計

入ってきたお金
34億5427万円

使ったお金
32億6169万円

村の力で得たお金

- みなさんから税として集めたお金 2億8403万円
- 村の事業で村民のふたんしたお金 871万円
3220万円
- 保育料や村の住宅をかすなどして得たお金 3億5989万円
- 貯金をとりくずしたお金
- 昨年のこしたお金 2億1660万円
- きふ金・その他のお金 5161万円

国や県からもらったお金

国からもらったお金 18億2340万円



国や県からもらい
使い道が決められたお金 4億9883万円

借金 国や銀行から借りたお金 1億7900万円

人件費
5億6552万円

村長、議員、職員にはらうお金

扶助費
2億416万円

お年寄りや体の不自由な方を助けるお金

公債費
3億5450万円

借金を返すお金

普通建設事業
4億4637万円

道路や建物などの建設事業に使うお金

災害復旧事業
2747万円

台風の災害により河川などをなおすお金

物件費
4億4580万円

事務用品などを
買うお金

維持補修費
2165万円

建物などをなおすお金

補助費等
5億2936万円

地域や各団体へ
補助するお金

貸付金
750万円

他にかすお金

積立金
3億4848万円

貯めておくお金

繰出金
3億1088万円

専用のさいふに
うつすお金

鮫川福祉会の 運営状況など

議案 調査



社会福祉法人 鮫川福祉会と意見交換

青少年広場大規模改修設計業務に875万円
鮫川福祉会補助金に2000万円
平成30年度に執行された事業の実績や、今年度の事業について、各常任委員会でも合協議案調査を行い、現地調査にて事業の現状を確認しました。

総務文教 常任委員会

問 青少年広場大規模改修設計業務

答 グラウンド暗渠排水、クレイ舗装

問 ふくしま駅伝実行委員会

136万円

答 選手への旅費、各種大会への参加費

問 こどもセンター工事請負費

49万円

答 廊下天井板の張替え工事

問 住民意識調査業務

194万円

答 後期基本計画策定業務

問 地域振興費寄附金

481万円

答 ふるさと納税などの寄附金

産業厚生 常任委員会

問 鮫川福祉会補助金

答 グループホーム設置工事の補助

問 宅地分譲地造成工事

4394万円

答 給排水工事、道路工事ほか

問 湯の田水源涵養林整備業務

259万円

答 さざり荘裏山の伐採業務

問 東白川サイクリング推進協議会負担金

50万円

答 東白川自転車活用推進協議会への負担金

問 高齢者総合福祉センター居住棟運営業務

539万円

答 光熱水費と人件費



旧つるや旅館の内部確認



林道東前田線舗装工事



村道江堀那倉線舗装補修工事

議員5人が登壇ズバリ!! 村政を問う!



8月20日に告示された、1名の欠員を補うための補欠選挙で、関根浩治さんが新たに議員として加わりました。

関根 浩治

議員の1人として、活気ある村づくりの為に精一杯の役割を果たして行きます。



P 8

北條 利雄

- 新村長の基本理念と政治姿勢
- 6次産業化と農商工連携
- 自治基本条例制定の考え方



P11

関根 英也

- 今後の村政



P 9

前田 武久

- 村長就任の公約と抱負



P12

遠藤 貴人

- 学校給食費のこれから



P10

森 隆之

- 鮫川中学校への進学状況

一般質問は、議員の日常活動を通じて、住民の声や自身の考え方をもとに、村長、教育長などの方針を問うものです。

鮫川村議会は、一人あたり90分の制限時間内であれば、質問の回数に制限はありません。

議会の進行



星 一 彌 議長

出席議員



宗田 雅之 議員



前田 雅秀 議員



堀川 照夫 議員



北條 利雄 議員

問 新村長の基本理念と政治姿勢を問う

答 次世代につなぐ郷土づくりに取り組む



32年ぶりの政策議論を村民に問いかけたマニフェスト(公約)

質問

32年ぶりの村長選挙、村づくりの政策を掲げ、政策議論を村民に問いかけた両候補に感謝する。新村長が選挙の中で掲げたマニフェスト(公約)村づくりは人づくりの基本理念。小さくても豊かな村に、無限の村民力と最大限の行政力とする施策の具現化策。相手方が掲げたマニフェストの施策対応と政治姿勢を問う。

答弁(村長)

村づくりは、現在の村民性に加えて、郷土愛豊かな人間性の構築である。村の宝である青少年のキャリア事業などの充実を図り、「地域は人なり」で全力を注ぐ覚悟。「小さくても豊かな村」は、産業振興の経済的な豊かさ、人間性の豊かさ、美しい環境の豊かさである。無限の村民力、最大限の行政力は、皆様のご提案と議論を連動し次

質問

世代につなぐ郷土づくりに取り組む覚悟。相手候補の公約は、行政職の経験と地方自治を学び、研究された具体的な公約。すり合せて今後の政策立案の参考とする。

問 六次産業化と農工商連携を問う

情報を共有し、密な連携を取り推進する

質問

六次産業化は、地域資源を有効に活用し、農林漁業者等による事業の施策、地域の農林水産物の利用の促進を総合的に推進し振興等を図るもの。農工商連携促進は、農林業者だけでなく、中小企業者と連携して行う新商品や新サービスの開発や販路開拓等の取り組み。計画の現状と具現化策、農林行政施策や各事業への各種団体との共有と連携方策の状

況と今後の取り組みを問う。

答弁(村長)

基幹産業である農業の振興、商工業の振興など、総合的な経済の発展には、農産物の六次産業化や特化した地域ブランドの商品開発と営業、販売戦略は不可欠。足元の素材の活用での特化した商品開発に着手する。攻めの販売戦略を計画し販路の拡大による稼げる村づくりを推進。経済を支える農林業の振興は優先課題。各関係団体と情報共有し、密な連携を取り方策を組み立て推進する。

問 自治基本条例制定の考え方を問う

条例制定に向け、条約研究を重ねる

質問

「自分たちの村のことは自分たちで決めてい

答弁(村長)

住民と自治体が、住民参加の基本原則に基づいた情報公開と説明責任を果たし、協同によるまちづくりが稼動しつつあると認識している。議会でも、鮫川村議会基本条例を制定し村民に寄り添う公開性かつ自立性ある議会として、村民から大きな期待がある。ご提案の自治基本条例にも、村づくりの最高規範として住民参加の過程を経て、条例制定に向けた研究と協議を重ねる。



前田 武久 議員

問 村長就任の公約と抱負は

答 定期的な地区懇談会、村民との対話

質問

村長就任の公約、抱負と決意は。

答弁(村長)

村民との対話のための村政懇談会を、地区別、業種別、若者、女性などで開催し、村づくりへの村民発案、職員の知恵を得て構築したい。

再質問

村長の主眼とする施政方針は。

答弁(村長)

基幹産業である農業の振興、商工業の支援、雇用の場の確保、人口減少対策、空き家対策、移住者支援、結婚問題対策、子育て支援、災害対策、地域医療の充実を図る。

再質問

任期中、村民の暮らしを守るための経済活性化策は。

答弁(村長)

国庫の有利な補助金制度を利用し、本村特有の立地を活かした稼げる村を目指す。

再質問

村長の所属党派は。

答弁(村長)

今後、自民党員を辞して村政に当たりたい。

再質問

本村存続を図るための主眼として、地場産業、村に有する資源の有効活用を図り、生活を守る経済対策が急務であるが。

答弁(村長)

議員指摘の森林資源、観光資源はまだまだある。湯の田温泉の営業戦略、足元の素材に磨きをかけたい。

再質問

森林資源の活用、どのように考えているか。

答弁(村長)

既にバイオマス・ヴィレッジ構想で、さざり荘

ボイラーの燃料、自宅の新ストーブ、森林再生事業を視野に入れ、資源と相談しながら進める。

再質問

本村は7割の山林を有し、殆どが人工林で換金化されない状態であるが。

答弁(村長)

森林資源の活用構築を図らなければ、村の将来は語れない。協議を重ね、施策を組み立て内需拡大を図る。

再質問

前村長の施策を継承される考えか。

答弁(村長)

継続事業は更に磨きをかけ、修正すべきものは見直す。問題を抱えている中心地活性化は、諮問協議会を4回重ねており、最終策の骨幹が出来ると思う。しかし、財政の問題、施設の規模の問題、運営の問題、箱物だけを先行することは慎重に考えている。村民の

再質問

考えを聞き、方向を変えられる場合もある。

首長は選挙で有権者の審判を受けた方ではないと、村民のための執行者となれないため、新村長に期待する。村民対話、アンケート調査の実施はいつごろか。

答弁(村長)

10月中旬から11月にかけて実施したい。

再質問

行財政改革での手まめ館、堆肥センター、ほっとはうす等の懸案事項については。

答弁(村長)

今年度の協議会の進め方は、農林商工課長に答弁させる。

答弁(農林商工課長)

施設として何が必要か、集客策があるか。村民の方々の意見を含め、検討課題を見据えていく。



森林資源活用事業



問

鮫川中学校への進学状況について

答

部活動減少の見直し、
小・中一貫教育へ

質問

鮫川中学校への進学
本村では、小・中学
校の児童・生徒の数が
年々減少傾向にあるが、

鮫川中学校への進学状
況を見ると、近隣の私
立中学や他町村中学へ
の進学者も出てきてい
る。その原因は。

答弁(教育長職務代理者)

ここ3年間で、全体
で7名が鮫川中以外の
中学校へ進学している。
理由は、全てを正確
に把握できないが、1
つ目は、私立中学校に
おける中高一貫教育へ
の期待。2つ目には、鮫
川中学校にはない部活
動に挑戦したいという
子供の強い思いがある。

再質問

今後小・中連携をよ
り強化して、9年間の
長いスパンで教育を考
えていく必要性を感じ
ている。教育委員会が
リーダーシップを発揮
すべきところは発揮し、
学校側の判断、主体性
を重んじるべきところ
はそれを重んじる形で
運営をしたいと考える。

答弁(教育長職務代理者)

小中一貫教育という
のも、これから将来を
見据えてやるべき事業
だと思っている。

村の教育委員会とし
ても、リーダーシップ
を発揮し、学校への指
導をしながら進めてい
かなければならない問
題だと思つ。



教育環境の見直しが必要とされる鮫川中学校

1つ目の理由に関し
ては、高校で履修すべ
き内容の一部を中学校
で行う早期教育の実現、
系統的、継続的教育へ
の関心、中・高が連携
した部活動指導などが、
保護者や生徒の教育に
寄せる関心につながつ
ている。

2つ目は、鮫川中学
校の部活動が減つてい
く傾向の中で、自分が
やりたい、あるいは小
学校までやってきた部
活動をさらに追求した
いという強い思いがあ
る。保護者の考え方も
多様化してきており、
自分の子供に合った教
育環境を選択する、そ
んな時代になってきて
いるものと感じている。

今後生徒数が減少し
ていく中、鮫川中学校
で部活動を継続してい
くことができなくなる。
子供たちを鮫川中学校
に就学させたいならば、
部活動を無くし選択肢
を狭めるのではなく、
何らかの知恵を出して
いかなければいけない。
教育委員会がリーダー
シップを発揮し、小・
中学校連携を深めて、
小学校でのスポーツ活
動の把握。それを受け
て中学校でどのように
発展させていくのか。
そういう取り組みが大
事かと思う。人口減少
に伴い小中一貫校とな
ることが近い将来くる
と思われる。今後、教



関根 英也 議員

問 今後の村政について伺う

答 地区別村民懇談会を開催し、村づくりの意見を聞き、第5次振興計画に繋げる

質問

村の基幹産業は農業であるが、農業をどのような位置づけで発展させていくのか伺う。

答弁(村長)

村の総生産額は84億7000万であり、農業生産額は7億3000万で総生産額の8.6%を占めている。和牛繁殖、酪農、水田、畑作専業農家には、若い担い手



村の農業を支える肉用牛繁殖経営

も活躍し継続的な経営発展を期待している。本村の農業はバイオマスヴィレッジ構想による循環型農業を実践し実績を上げている。今後新規就農支援、担い手の育成、楽しく稼げる農業の確立に向け支援策を講じていく。

再質問

村の宝として取得した湯の田温泉の今後の活用は。

答弁(村長)

平成23年に、さざり荘も新築され癒しの場として湯質効能にも高い評価を得ている。旧つるや旅館も、唯一の民間宿泊施設として長年利用をいただいた。村内外の皆さまから「村中心地宿泊施設整備」の要望に応じて、取得への議決を6月定例会議会でいただいた。本定例会議会で契約の議決をいただいた後に改修工事や経営方針を協議する。さざり荘との連携、周辺の環境整備も視野に入れながら、湯の田

温泉郷の総合的な整備を推進する。

再質問

自主財源の乏しい本村では、ふるさと納税も貴重な財源と思われるが今後の取り組みは。

答弁(村長)

平成20年7月から、ふるさと納税に取り組んでいる。寄附金の総額は2784万円となり、自然環境保全、特産品の育成、歴史文化の保存、高齢者の生活支援などに活用している。

再質問

地方創生も第2期目になるが、どのように取り組んでいくのか。

答弁(村長)

平成28年に東京への人の流れを変えようと、創生法が定められ「やる気のある自治体を総合戦略で応援する」とした地方創生事業だが、村でも交付金3000万円を活用し、鮫川村総合戦略、鹿角平観光牧場スポーツエリア構想、湯の田温泉開発構想、中心市街地活性化構想などを策定してきた。

今年度は鮫川村中心地域活性化協議会を設立し協議を進めているが、慎重に検討すべき。アンケート調査、地区別村民懇談会を開催し見直しを視野に第5次振興計画に繋げたい。



遠藤 貴人 議員

問 半額補助の学校給食費を 今後どうするのか

答 慎重に議論を重ね 感謝の心を育てる食育を目指す



知識教育、道徳教育、体育教育の基礎となる健全な食生活

質問

国の給食費無償化の動きは、各党で実現に向けた議論がなされているが、実現していない。そんな中、少子化対策として給食費の無償化に取り組む自治体が増えている。

本村での給食費半額補助については、半額補助の是非を単独で審議する提案でなく、5月臨時議会に専決処分の報告として議案上程された。報告議案では、給食費の半額補助が詳細にわたり論議されて

いるとは言いがたく、不確定な問題も多かったと感じている。現在、半額補助になっている学校給食費だが、今後どのように施策を進めるのか。

答弁(村長)

学校給食に必要な運営費は自治体が負担し、それ以外の経費は保護者負担と学校給食法で定めている。この法律は、食材費を保護者負担としているが、自治体などが給食費に對して補助することを禁止する意図はないため、保護者負担の軽減を講じる自治体が増えている。今後、村の財政状況を勘案しながら、慎重に議論を重ねていく。食べ物に対する感謝は勿論、親への感謝、給食にかかわる人への感謝の心が育つことも食育の一つ。当面は村が半分、保護者が半分という費用負担を進めていくが、学校給食を含めた子育て支援長期プランを村

民の意見を聞きながら策定する。

再質問

専決処分を行使できない場合の決まりとは。

答弁(総務課長)

地方自治法で定められ、特に緊急を要するとき等の要件がある。給食費の補正予算専決処分は、特に緊急を要するため、議会を招集する時間的余裕がないことから専決処分とした。

再質問

「地方が競えるのは教育」というのが私の持論。問題解決の手段にお金を使うのであれば、そこには議論があつてしかるべき。大事な問題に対し、議会が発言できる機会がなかったのは非常に残念。今後、重要な施策については議論を深めたい。

答弁(村長)

食は与えられるものでなく、苦労して生み出すもの。大事なのは

子供の食育であり、食育について栄養士や給食センター所長と意見交換したばかり。負担額は担当課に答弁させる。

答弁(教育課長)

半額補助で村負担額は667万円。

再質問

全額補助しても1300万。予算規模として大きな額ではないが、施策に議論がなければ成果や効果が半減してしまう。

根性論や精神論に偏らず、どのようなお金の使い方が鮫川村の教育に適するのか、重要施策を論じ合いたい。

追跡! 第14弾

過去の一般質問が行政に反映されているか、その経過を検証します。

どうなったっぺ? あの一般質問

【鳥獣被害対策】

質問・提言

超音波発生器で鳥獣対策に成功した事例があるが、取り入れる考えは。

平成29年 6月議会

答 弁

様々な助成をしているが、超音波発生器の購入、貸し出しも検討したいと考える。

経過及び結果

耕作放棄地の拡大と共に鳥獣被害は増加しているが、現在は狩猟、罾、電気柵で対応している。



大切な農産物を守る電気柵

【宿泊施設設置】

質問・提言

村民、村外に出た方々から湯の田温泉を利用した宿泊施設の要望があるが、施設設置の考えは。

平成29年 6月議会

答 弁

温泉を利用した地域の活性化を図る計画を進めている。次世代が希望を持てる事業を手掛けていきたい。

経過及び結果

湯の田温泉近くの旧つるや旅館を購入し、施設利用を図るための検討を重ねている。



中心地活性化の要点となる湯ノ田温泉

※定例議会での「一般質問」は「村民の皆様の声」や議員の「政策提言」を村政に反映できるひとつの手段です。質問した「政策提言がどのように検討されているか」を根強く検証していく事としています。

『まちなみづくり』 視察研修報告



担当職員から事業内容の説明を受ける

山形県金山町は100年をかけて、自然景観と調和した美しい街並みをつくりながら林業の振興、住人と自然の共生を図る『まちなみづくり100年運動』を推進しています。

町域の4分の3を占める金山杉と、白壁を用いた金山型住宅。石造りの農業用水路には錦鯉を放流する



100年後を目指した景観整備のこれまでを振り返る

など、景観施策に意欲的な自治体として、複数のコンクールで受賞実績があります。

金山町は、これまでの「行政主導型の町づくり」から「地域住民と行政の協働による町づくり」を想像し、住民が主体となった「まちなみづくり」が発展していることを学びました。

村民の広場

～スポーツクラブの紹介～

鮫川村スポーツ少年団 バレーボール部

スポ少バレー部は、現在1年生から6年生までの13名の部員と指導者5名で活動をしています。

公式戦は新人戦をはじめ年4回 その他交流大会に参加しています。今年度の成績としては、県大会出場も果たしました。

その他、交流大会ではMVP賞を頂いた選手もいて、卒団生の中では中学校・高校と活躍している選手もいます。



バレーボールは球技の中で唯一床に落としてはいけないスポーツで一見難しいと感じますが、身につくと楽しく感じます。低学年のうち、ボール遊びの感覚で始めることができ、中・高学年になると体力も向上し始め、ジャンプ力やボールコントロールも身につく成長する姿はとても頼もしく感じます。

また、大人になってからでも地域交流大会やママさんバレーなど老若男女問わず長い期間で楽しめるスポーツです。

交流大会、プロバレーボール観戦、クリスマス会などなど楽しいことも沢山あります。ぜひ見学に来てください。男女問わず部員募集中です。



- ◆ 活動日：火・木・土曜日
- ◆ 代表者：生田目 宏好



議会傍聴者からの一言

— 9月定例議会傍聴者アンケートより —

◆ 議員の発言内容は良くわかりましたか

・ 個々の議員が、村のありようについて心配され活動されていることが良く感じられた。

◆ 答弁者(村長・教育長)の発言はわかりましたか

・ 村長の答弁は、わかりやすい言葉を選んでの説明で、一生懸命答弁されていた。

◆ 傍聴されて気づいた点がありますか

・ 傍聴者が通常より多く、活気があった。

◆ 議会全般に対してご意見ありますか

・ 新村長の元、全議員で村政発展に頑張つて欲しい。

ゆうきくんからのお願い

議会傍聴に来てくんちナイ!

12月定例議会は12月11日からの予定です。



ふるさと鮫川への想い シリーズ③4

わが心はいつも鮫川村と家族にあり

今年、令和元年の令和への改元、台風による大規模停電・河川氾濫による災害、TPPでの貿易交渉など、世の中の流れが大きく変わりつつある中で、私はまもなく古希を迎えることとなりました。

私は昭和24年12月1日、鮫川村大字富田字彦次郎に父助六、母ナツの三男として、生まれました。子供の頃は、まさに「うさぎ追いかの山、小鮒釣りしかの川」に歌われる如くに、富田の自然の中で、家族・兄弟や親せきに見守られながら平穏に遊んでまわっていました。

富田小学校に入ると校歌を歌うのですが、「古(いにしえ)の菅生(すげう)の邑(むら)を」とあり、今になって漢字で校歌を読み、意味を考えるに付け、実に味わいのある歌で、富田の先人の心意気に深く感銘を受けています。鮫川村は凄いと。

富田小学校を卒業し、鮫川中学校に自転車通学することになり、そこで3年間を過ごしました。中学3年の卒業時、初めに平工専に合格したのですが、長男の兄が「平工

専の5年よりも、普通高校・大学に行けば、少なくとも7年は勉強で、長く学校に行ける道の方が良がつべ」と推奨コメントがあり、平工専を断り、安積高等学校に無事合格となりました。この時の長男の一声には、今でも深く深く感謝しています。

その結果、16年間過ごした鮫川村を離れることになり、安積高等学校では、郡山市開成山の近くに下宿していました。16歳と言ふ事もあり、月に1回程度郡山から水郡線に乗り、棚倉町からはバスで鮫川に帰るのですが、また鮫川・富田・家族に会えるんだと思うと気分が高揚し、懐かしい故郷に帰る楽しみは何とも言えないものがありました。

安積高校卒業後は、山形大学工学部化学工学科に進学し、今度は福島県を超えて山形県に行くことになりました。昭和47年3月に山形大学を卒業し、昭和47年4月に大学院工学部化学工学専攻に進学し、昭和49年3月に卒業しました。

昭和49年4月に、石川島播磨重工業(現在の株式会社IHI)に入社しました。会社としては発電設備、船、ジェットエンジンなどを提供しており、社会基盤事業が主です。私は、火力発電設備(皆さまの使っている電気を起こ

す設備)の設計業務に従事してきており、少しは皆様の生活には役立っているのではと思います。

会社勤めは45年程度になりますが、火力発電の事業に従事しているため、海外出張なども数多く有り、オーストラリア、アメリカ、スウェーデン、イタリア、イギリス、中国などへ行きました。特に、オーストラリアへの出張回数が多く、その際仕事が目く行かない時や、英語の世界にあつて寂しくなった時などは、遠い異国に居てすぐには帰れない事が分かつていても、小さい時に育った鮫川村に帰ってみたいと非常に懐かしく思ったことでした。日本から遠く離れてみて初めて「ふる里は遠きにありて想うもの」の言葉の意味と我がふる里鮫川村に対する愛着の深さを実感することができました。現在は東京に住んでいます。その思いは今も変わりがありません。

私の兄弟は4人で、皆健在であり、事あるごとに集まるのですが、酒が入るとつい鮫川村が懐かしくなり、富田小学校校歌、鮫川中学校校歌を全員で合唱し、大いに盛り上がりがあります。何とも言えない良い気分です。

最後に、我がふる里鮫川村の更なる発展を祈念し終わります。

◆プロフィール

- 生年月日 昭和24年12月1日(1949年)
- 昭和37年3月 鮫川村立富田小学校卒業
- 昭和40年3月 鮫川村立鮫川中学校卒業
- 昭和43年3月 福島県立安積高等学校卒業
- 昭和47年3月 山形大学工学部化学工学科卒業
- 昭和49年3月 山形大学大学院工学部化学工学専攻修士課程修了
- 昭和49年4月 石川島播磨重工業入社 化学プラント事業部
- 昭和59年4月 石川島播磨重工業 ボイラ事業部
- 令和元年現在 株式会社IHI(石川島播磨重工業)勤務中



初孫と一緒に

ひらた
衡田 正吉 さん
(旧姓 青戸)

杉並区在住(富田字彦次郎出身)

編集後記

今年、春先から異常天候続きでしたが、収穫真最中の台風19号の襲来により、全国各地で大変な被害が発生し尊い人命を奪われ被災された方々にお見舞い申し上げます。

幸い当村での死亡事故はありませんが、住宅、道路、耕作地で多くの被害が発生し、一日も早い復旧が望まれており、議会としても最善の対策を実施し、通常の村民生活に戻れるよう努力いたします。

皆様に親しまれる議会だよりとして編集いたしますので、今後ともご支援、ご協力をお願い申し上げます。
(広報編集委員)



兄弟会写真(白河市 小峰城にて)
長女 明子 三男 正吉 長男妻 里子 長男 代吉 次男 弘次